

# GPS観測から得られた福岡県西方沖 地震発生後の地殻変動

九州大学 地震火山観測研究センター  
北海道大学 大学院理学研究科  
鹿児島大学 理学部

3月20日の福岡県西方沖地震発生直後から緊急地震観測の一環として、GPS観測網を福岡市およびその周辺に展開してきた。現在10カ所で連続観測を実施し、地震発生後に生じている地殻変動を監視している。周辺にあるGEONET観測点のデータを含めて解析した水平変動量を下図に示す。

余震(赤丸)の発生域周辺では変動が大きく、玄界島や志賀島、小呂島は1ヶ月に1cm程度の割合で地殻変動が続いていることがわかった。これは余震域でごくわずかなゆっくりとした断層運動がまだ継続していることを示している。

それに対して福岡市中心部付近は変動量が小さく、福岡県西方沖地震後も警固断層はいまだ固着した状態にあることを示している。

